

5. 技術者の誇り

ホンダと言えば、今日では自動車メーカーとして世界的に有名だが、ホンダはもともと自転車に付けるエンジンを販売する会社として出発した。そのエンジンを開発したのは、ホンダの^{そうぎょうしゃ}創業者でもある本田宗一郎だ。本田と車の関わりは、東京にあった自動車修理工場^{じどうしゃしゅうりこうじょう}から始まる。本田は1922年からこの修理工場に6年間勤務し、自動車修理や整備^{せいび}の技術^{ぎじゆつ}を習得した。その後、故郷^{ふるさと}の静岡^{しずおか}に戻り、自動車修理工場^{じどうしゃしゅうりこうじょう}を開き修理工場を大きくした。しかしながら、さらなる高度な技術^{ぎじゆつ}の必要性を感じ、1937年、浜松高等工業高校(現静岡大学工学部)^{ちようこうせい}の聴講生として、3年間金属工学の研究に努めた。その結果、1947年に自転車につける補助^{ほじょ}エンジンの開発に成功し、1948年に現在のホンダの前身となる会社を設立した。その後、ホンダはオートバイ、自動車、小型ジェット機、そして二足歩行のロボットアシモまで、数々の製品を製造^{せいぞう}する大企業^{だいきぎょう}になった。

本田はホンダという大企業^{だいきぎょう}の創業者^{そうぎょうしゃ}で経営者^{けいえいしゃ}であるが、経営に関しては後のホンダ^{ふくしゃちようふじさわけお}副社長藤沢武夫に頼る部分が多く、本田はというと、自分自身は技術者^{ぎじゆつしゃ}だと考えていたようだ。そして、技術者^{ぎじゆつしゃ}であることに誇り^{ほこ}を持っていたようで、こんなエピソード*が残っている。1981年、長年の本田の活躍に対して政府から勲章^{くんしょう}が贈^{おく}られることが決まり、本田は天皇からその勲章^{くんしょう}をもらう式に出席することになった。本田は技術者^{ぎじゆつしゃ}の正装^{せいそう}は白い作業着であるから、燕尾服^{えんびふく}ではなくその作業着を着ていきと言^いい、周囲^{しゅうい}の者を慌^{あわ}てさせた。結局^{けっきよく}は周りの人々の説得^{せつとく}もあり、当日はもちろん燕尾服^{えんびふく}で式^{しき}に出席したそうだが、本田の考え方がよく分かるエピソードである。

本田^{ほんだ}と藤沢^{ふじさわ}は日本の会社の創業者^{そうぎょうしゃ}にしては珍しく会社は個人の持ち物でないという考えを持っており、本田も藤沢も自分の子供をホンダに入社させなかった。そして現在でもこの考え方**は守られており、ホンダは実力本位の採用を行っている。また、会社の社長は技術者でなければいけないという藤沢の考え方を尊重^{そんちょう}し、本田が辞めた

後も、社長には技術者^{ぎじゅつしゃ}が選ばれている。ホンダは色々な意味で日本でも珍しいタイプの会社かもしれない。

単語リスト：

修理（しゅうり）Sửa chữa
整備（せいび）Bảo dưỡng, bảo trì
習得（しゅうとく）Lĩnh hội, tiếp thu được
故郷（こきょう）Quê hương
金属（きんぞく）Kim loại
補助（ほじょ）Hỗ trợ, bổ trợ
前身（ぜんしん）Tiền thân, tiền nhiệm

大企業（だいきぎょう）Công ty lớn, Doanh nghiệp lớn
創業（そうぎょう）Thành lập
誇り（ほこり）Niềm tự hào
勲章（くんしょう）Huân chương
天皇（てんのう）Thiên hoàng
正装（せいそう）Trang phục truyền thống, lịch sự
燕尾服（えんびふく）Áo vest đuôi tôm